

若手教員の悩み相談室

伊川 徹

IKAWA Toru
Université d'Ashiya
ikawa@ashiya-u.ac.jp

前田 美樹

MAEDA Miki
Lycée Konan-Joshi
mikimaeda.2005@forest.ocn.ne.jp

橋本 まや香

HASHIMOTO Mayaka
Université Kobé Jogakuin
mayaka803@gmail.com

はじめに

アトリエ「若手教員の悩み相談室」は、今年も新たにフランス語教育に携わっている二人の教師を迎え開催された。発表者二人のうち一人は高校で教え始めて2年目、もう一人は大学と一般向け講座（生涯学習センターや語学学校等）で教え始めて4年目である。異なる教育機関で教えているお二人の悩みを簡単に紹介し、参加者と意見交換し、解決方法を探ってみた。

発表要旨 前田美樹

高校で選択科目としてのフランス語を教えはじめて2年が過ぎたが、ますます、「高校生にフランス語を教える」というのは、どういうことなのかということを考えるようになっていく。高校でフランス語を教えはじめてまず感じたことは、学校という組織の中でありながら、孤立した存在であるということである。大学で専門

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

としてフランス語を学んだ者としては、大学の場でのフランス語教育の雰囲気しか知らない上に、免許習得のためのいくつかの授業と、決して十分ではない3週間の教育実習での経験を糧に、フランス語の授業を作り上げていくのは、容易なことではなかったし、そのような困難を感じている若い教師は多いのではないか。自分の抱える孤独感や問題点をどのようにすれば克服できるのかということについて参加者のみなさんと意見交換を行うのは無駄ではないと思いで参加するに至った。

公立高校、私立高校において、それぞれ自由選択科目で2年次より学ぶ第二外国語としてのフランス語を教えているのであるが、各学校において、フランス語を担当する教員は自分一人であり、授業作りから教科書選択、試験づくりから成績処理まですべてを自分が責任を持って行わなければならない。また、学校によっても、第二外国語に対する対応はまちまちであり、とまどうことも多い。他教科の先生との意見交換もあまり進んでいない状態で、手探りで進む今の状況に対して不安を感じているが、その不安はどのようにすれば解決されるだろうか。

参加者からの意見

- ・まずはシラバスをきっちり作ること。
- ・他の先生の授業を見学してみてもどうか。
- ・ティーチングアシスタントなどの経験をしてみるかどうか。
- ・通信教育などで、現地の FLE を学んでみるかどうか。
- ・自分独自の方法で、新しいことをどんどんやってみてもどうか。
- ・自分が学生の時にどのように習ったか思い出してやってみたらよい。
- ・PEKA などのバックナンバーを読んでみるかどうか。
- ・語学学校などでの実践も参考にしてみてもどうか。
- ・英語教育や日本語教育での実践を参考にしてみてもどうか。
- ・教師間のコミュニケーションを活発化させるために、コーディネーターの存在が重要である。

次に、異なったレベルの生徒が混じり合ったクラスで授業をよりよいものにするためには、どうすればよいだろうかということを考えてみたい。現在教えている学校では、どちらの学校も、2年生からフランス語を選択できるが、基本的には2年続けてフランス語を履修することになっている。しかし2年生の3学期に行われる自由選択科目の履修調査において、選択科目の変更が可能である。ここで選択科目の変更を希望する生徒は、フランス語を1年間でやめることができる。私立高校の方では、3年で新たにフランス語を選択する生徒も少なくないので、3年生のフランス語の授業では、2年目の者と、初習者が混じり合うクラスができる。そのような混合クラスにおいて、効果的に授業を行うためにはどうすればよいか。

参加者からの意見

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

- ・中級の生徒がメインの時間と初習の生徒がメインの時間を分けてみてはどうか。
- ・授業を均等にするために、教師が授業をきちんとコントロールすることが大切。
- ・中級の生徒が初習の生徒をフォローするようにさせてはどうか。
- ・初習の生徒のための補習をする。
- ・このような異なったレベルの生徒が混じり合うという状況は避けるべきであるが、制度の壁が存在する。

他にも、普段の授業をよりよいものにするために、次のような意見も出された。

- ・授業中にあった質問はみんなで共有する。
- ・間違いやすい事項をリスト化してみる。
- ・授業を活発なものにするために、身近なものを使ってロールプレイをする。
- ・授業では、インプットばかりではなく、不足しがちなアウトプットを増やすために、ペンパルを見つけたり、スカイプを使ってネイティブの人びとと生徒がコミュニケーションをしたりする機会も設けてみてはどうか。

発表要旨 橋本まや香

私の「悩み」は大きく分けて二つあります。第一は大学で教える際の悩みで、学生からの質問への対応の仕方です。授業内容についてはもちろん、フランスに関すること等、様々な質問を受けますが、対応に困ったのは、ネイティブ教員の授業内容の補足や宿題、試験準備の手伝いをするものでした。同僚のネイティブ教員は日本語が話せますが、ほとんどフランス語で授業をするため、1回生の場合あまり理解することが出来ず、また質問をすることもできないそうです。ネイティブ教員が黒板に書いた文字も読みにくく、そのまま写して、何と書いてあるかを私に尋ねるという有様です。また、会話文を作成して発表するという宿題や試験の準備を手伝ったりもしました。学生のフランス文を添削したり、読み方を教えたりするだけで、長い場合は、1時間くらいかかったこともありました。

対応としては、学生が作成した文章は添削しますが、文章の形態をあまり変えることなく、性数一致やアクセント記号等の誤字脱字を直す程度にすることでした。総て直してしまうと、学生が作成した文章ではなくなってしまうからです。

今後の課題としては、学生からの質問には、自分の授業内容に関しては引き受けるが、他の教員の授業に関しては、手伝える程度で総ては引き受けないようにしようと思います。授業以外の質問が多い場合は、他の教員やコーディネーターに相談し、解決方法を探していこうと考えています。

参加者からの意見

厳しい意見としては、他の教員（今回の場合はネイティブ）の授業に関する質問には一切対応しないというものでした。その他の意見では、そのネイティブ教員と

Rencontres Pédagogiques du Kansai 2011

相談する、またはコーディネーターと相談する等でした。学生の宿題については、努力してきた形跡がみられる場合は対応するが、そうではない場合は、対応しないという意見もありました。

次に私の第二の悩みは、一般向けの授業で教える際に、授業の流れをうまくコントロール出来ないということです。受講生は、30代から70代で、私よりも年上の方がほとんどという状況です。学生とは違い、授業中の質問や発表に躊躇することはありません。一見、とても積極的に見えますが、質問や発表が長く続き、そこから違う話へと脱線してしまうこともあります。また、授業後にも、授業内容やレベルについての希望を色々と要求します。総ての受講生がこのようではなく、10人のうち1~2人で、クラスの中では年長者で、受講年数が長い人にこの傾向が多く見られます。

対策としては、授業内容については、出来る範囲内で希望に沿えるよう努力しましたが、レベルについては、変更することなく、そのクラスに設定したレベルで行いました。意見や苦情を申し立てた受講生には、それができない事情を説明しました。

今後の課題としては、いくら受講生が私より年長者であっても遠慮することなく、指導する立場、授業をコントロールするのは自分だということを強く念頭に置き、授業の流れがスムーズになるよう努力していこうと思います。そのためには、言いにくいことも時には言わなくてははいけないし、総てを受け入れるのではなく、断ることも必要だと考えます。

参加者からの意見

いつも同じ人が発表するようであれば、「前回発表されましたから、今回は違う人に」と提案し、また、最初に発表時間を提示し、その時間がきたら、「時間です」と打ちきることです。発表者の内容を教師だけが聞くのではなく、受講生全員が参加できるよう、その内容に関して、教員が他の受講生にも質問することです。

おわりに

このようにして、アトリエ「若手教員の悩み相談室」では、若手からベテランの先生まで、さまざまな方々から貴重な意見をいただくことができた。アトリエを行うなかで、自分の抱いていた孤独と不安の多くの部分は解消されたように思う。今後は自分の狭い世界に閉じこもることなく、積極的に授業見学や研究会などを通して、若手教師特有の悩みを他の若手教師たちとも共有し、解決すべく、研究会なども立ち上げて、フランス語教育の世界の発展を図りたい。